

観光産業の振興について

○平井一三委員

自民党県議団の平井一三です。通告に従いまして、観光産業の振興についてお聞きしたいと思っております。ただいま秋田委員からの質問があり、少し重なるところがあります。中国や韓国以外からのインバウンドの促進につきましては割愛をさせていただいて進めさせていただこうと思っております。

まず最初に、昨年のラグビーワールドカップは大変成功であったと思っております。欧米豪からの入国者がふえたと聞いておりますけれども、その実績を今後の政策にどのように生かしていけるのかをお聞きしたいと思います。

○中垣観光振興課長

昨年は、ラグビーワールドカップ開催もありまして、欧米豪から本県への入国者数は、二〇一八年度対比で一五%増加となりました。

来年度は、この成果を踏まえまして、海外空港を経由して福岡空港または北九州空港から直接入国する方を対象といたしました航空運賃の割引助成、また、関西、広島を経由して本県を周遊する旅行商品の造成、販売支援、また、オーストラリアの旅行専門マーケティング会社と連携いたしました現地のプロモーションなどに取り組むことで、欧米市場からの誘客拡大を図ることといたしております。

○平井一三委員

これまでいろいろな答弁をいただきまして、福岡県へのインバウンドの促進に熱心に取り組んでいただいているということは承知をしておりますけれども、観光というのはツーウェイのツーリズム、つまり来ていただいた国へは日本からも訪れると、お返しをすると、そのような仕組みづくりがこれからは必要ではないかなと私は思っているところで、インバウンドとアウトバウンド、これは一対であります。アウトバウンドについても、きょう質問をしようと思っていたんですけれども、担当の部が違うということでした。この機会にぜひ、観光部署を中心として庁内で十分なる連携を図っていただいて、インバウンドだけではなくて、アウトバウンドについてもしっかりと取り組んでいただくことをお願いしておきたいと思うところであります。

それで、九州への観光客、延べ宿泊数の八五%は日本人観光客であります。観光産業を支えている柱は、国内の観光客であります。この国内からの観光客を今後も確保して、そしてさらに増加させていくことは、安定した観光産業の振興にとって大変重要であると思っております。

ことしの取り組みといたしまして、県内で宿泊して北九州、福岡市以外の観光施設を三カ

所以上訪問すれば、レンタカー一台当たり三千円を補助するという制度を始められると聞いておりますけども、私は、このように福岡県という枠を対象にした観光メニューに少し窮屈さを感じているところであります。観光客にとりまして、県の境というものはありません。福岡に来て、熊本、鹿児島に抜ける、あるいはその逆もあるわけでありまして、福岡が潤えば熊本も鹿児島も潤うと、そのようなことができるように九州各県の連携が必要であろうと思っております。

我々県議会議員も参加しております九州観光振興議員連盟では、昨年のラグビーワールドカップの開催を契機といたしまして、九州は一つ、この思いのもとに九州を周遊する観光ルートの提案にも取り組んでまいりました。九州各県の執行部が連携して、その魅力の発信へ今後も取り組んでいただくなど、県境を越えた、圏域を越えた、九州への日本人の誘客に取り組んでいくべきと考えますが、県の見解をお聞きいたします。

○中垣観光振興課長

これまでも、九州各県や九州観光推進機構と合同で、日本最大級の旅行博や、そこにおきまして九州各県一体となったブースでの出展を行うとともに、修学旅行の誘致を行ったり、また、ラグビーワールドカップ二〇一九の期間中におきましては、九州の魅力の一つであります祭りのPRを行ったりと、九州各地の誘客を促進しております。

今後も、世界遺産やひな祭りなど、圏域を越えたテーマに沿ってつなぎ、周遊性を高める観光モデルルートの開発に取り組むことで、本県への誘客にもつなげてまいりたいと考えております。

○平井一三委員

それでは次に、観光資源の活用についてお聞きしたいと思います。観光関連のサイトでありますトリップアドバイザーによりますと、二〇一九年の外国人に人気の日本の観光スポットランキングベスト二十、これを見たことがあられるかどうかわかりませんが、この一位は伏見稲荷でありまして、二位が広島原爆ドーム、三位が宮島、以下、東大寺、箱根彫刻の森美術館と続きますけども、九州からは、やっと二十三位に鹿児島屋久島が入っているだけでありまして、三十位以内にはこの一件だけあります。調査の方法など詳細についてはいろいろな議論があるかもしれませんが、観光に関します主要なサイトでこのような状況であるということを見ますと、大変寂しい思いをしております。

九州には魅力的な観光資源はたくさんあると私は思っております。しかし、そのことが外国人に知られていないというのが現実であります。観光産業の振興において観光資源は大変重要であります。外国人観光客に広く認知してもらうための取り組みについてお聞きしたいと思います。

○中垣観光振興課長

旅行先として選ばれるためには、委員御指摘のとおり、まず、海外の方に福岡県を知ってもらうということが大変重要だと考えております。このため、旅行メディアのウェブサイトにも本県の特集ページの掲載をしたり、また、CNNトラベルで国内で唯一選ばれた本県内観光地を紹介するPR動画をANAの国内線の機内で放映する、また、海外の旅行博でプロモーションなどを行ってきたところでございます。

加えまして来年度は、県の観光ウェブサイト、クロスロードふくおかの英語サイトを全面的にリニューアルしまして、より海外観光客にヒットするコンテンツに特化した情報発信を行うことで認知度を向上させてまいりたいと考えております。

○平井一三委員

観光資源の認知向上につきましては、県と同じような認識を持っております。その具体的な取り組みについて今からお聞きをしたいと思っておりますけれども、先ほど申しましたように、福岡県は外国人に人気の観光スポットランキングのベスト三十に一件も入っていないという状況です。こういう状況を鑑みますと、いかにウェブサイトを閲覧してもらえかと、SNS上で見てもらえるかということが大きなポイントになろうかと思っております。

私の地元であります筑紫野市にありますイチゴ観光農園には、海外からの個人旅行者が多く訪れておりますけれども、そのほとんどが、それぞれの国、地域での検索結果、あるいは訪問経験のある仲間との情報交換をきっかけにして、このスポットに行ってみたいと思っ

て訪問されております。つまり、それぞれの国や地域で、SNS上で広がる仕掛けをつくっていくことが必要ではないかなと思っております。具体的な取り組みについて、どのように考えておられるかをお聞きしたいと思います。

○中垣観光振興課長

これまで、海外の方に写真や動画、そういったものをSNSに投稿してもらう福岡キャンペーンの実施や、インフルエンサーの招請といった取り組みを行ってきております。例えば、アメリカのインフルエンサーは、世界的な動画サイトのユーチューブで食をテーマに約百二十万人に、また、中国のインフルエンサーは、本県の観光の魅力について約百万人に情報提供したところでございます。

加えまして来年度は、十一万人のフォロワーを有します海外向けの県の公式フェイスブック上に新たに福岡県ウェブ観光案内所を設置いたしまして、SNSを活用いたしました観光情報発信を強化することで考えております。

○平井一三委員

今、認知度向上に向けました新たな取り組みを行っていただくということでもあります。私も、その状況をしっかりと見せていただこうと思っておりますけれども、この取り組みの成果

というのは、おのずといろいろな指標の中であらわれてまいりますので、今後ともしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

そうしましたら次に、観光の消費についてお聞きしたいと思います。

観光産業の振興を図っていくためには、観光客に消費をしてもらう、つまり、お金を使ってもらうことが重要であります。それを観光産業に従事されている方の収入アップ、やりがいづくりにもつなげていかなければならないと思っております。

外国人一人当たりの観光消費額は、全国平均が十五万三千元であるのに対しまして、福岡県は九万六千元です。まずは、この差を埋める努力をしなければなりません。そして、各地域が観光消費額を増加させるためには、県が旗振り役となって、観光資源を有する地域の観光まちづくりを支援する必要があると思っておりますが、具体的にどのように取り組んでいくのかお答えください。

○神代観光政策課長

地域の消費額を拡大する取り組みでございます。

一つは、先ほど秋田委員からの質問にも御答弁させていただきましたが、インバウンド向け体験プログラムを組み込んだ旅行商品の造成支援事業に、まず今年度新規事業ということで取り組んでまいりたいと考えております。

これに加えまして昨年度から、ふくおか観光地域リーダー共創塾という事業を行っております。これは、市町村、観光協会などの職員、また民間事業者を対象といたしまして、新たな消費を生み出す地域の観光地づくりを牽引する人材を育成する事業でございます。今年度は十四名の方が塾生として参加いただいております。そしてその方々は、観光客の増加あるいは観光消費額の拡大につながる観光地域づくりに向けました個別のプロジェクトを策定する、それを県といたしまして支援を行っております。

具体的な事例といたしましては例えば、篠栗町から参加された塾生でございますけれども、「～週末はお寺で深呼吸～自分と向き合う篠栗時間」というテーマでプロジェクトを策定いたしまして、お寺、森林セラピーなど篠栗町の観光資源をしっかりと捉えまして、お遍路、そして法話、座禅などの体験プログラムと、お寺での宿泊、これをセットにした商品を開発いたしまして、既に販売されているところでございます。

県では市町村、民間事業者にこうした機会を提供いたしまして、新たな観光消費を生み出すといった取り組みをしっかりと支援してまいりたいと考えております。

○平井一三委員

地域に入った具体的な取り組みもやっていただけると理解をいたしましたけれども、今、答弁されました事例にかかわらず、観光地の中には、観光消費につながる大きな可能性を持っているところもあるんですけども、それに気がついていない、あるいは、やり方がわからないといったところがたくさんあると私は思っております。そのような地域へ、県からも積極

的に入っていただいて、ぜひ掘り起こしを行っていただきたいということを申し添えておきたいと思います。よろしくお願いいたします。

最後に、滞在日数をふやして観光消費を促すための方策の一つとして、県はサイクルツーリズムに取り組まれております。具体的にどのような取り組みを行われるのかをお聞きしたいと思います。

○神代観光政策課長

自転車を使って各地域をめぐっていただくサイクルツーリズムを推進するために、昨年度、県、市町村、観光協会、それから、国の道路部局、そういった方々にも入っていただきまして、福岡県サイクルツーリズム推進協議会を設立しております。この協議会のもとで、昨年度五ルート、そして今年度新たに五ルート、計十ルートの広域サイクリングルートを決いたしました。現在専用のホームページで情報発信を行っております。

また、各地域での消費を促すために、ルート周辺の飲食店あるいは観光スポット、こういったところに立ち寄っていただく際に必要となりますサイクルスタンドを整備する支援を行っております。

来年度はこれに加えて、宿泊施設を支援対象に拡充いたしまして、自転車で観光される方が宿泊しやすい環境を整えて、滞在、宿泊、これをしっかりふやしていきたいと考えております。

○平井一三委員

この取り組みがうまくいくことを私も期待しているところでもありますけれども、しかし、その取り組みが地域の観光振興にどのように貢献できたのか、費用対効果がどうであったかということは、これからしっかりと検証をしていかなければならないと思っています。そして、その検証することによって、次のステップ、次の施策へしっかりとつなげていただく、これが大事であろうと思ひ、今後とも頑張ってもらっていただきたいなと思うところでもありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、部長にお聞きしたいと思います。新型コロナウイルスの影響がいつまで続くか不透明であります。観光産業は裾野が広く、我が県にとって大変重要な産業でもありますけれども、この今回の被害の範囲がどこまで及ぶかも今のところではわからないのが現状であります。新型コロナウイルスがおさまれば、観光産業の早期復興とさらなる発展を図っていかねばならないと私は思っています。新たな施策を講じる必要もあろうかと思ひますけれども、観光産業の早期復興とさらなる発展に向けた、部長の決意をお聞きしたいと思ひます。

○岩永商工部長

観光産業の早期復興、それから、さらなる発展についてでございます。

今、新型コロナウイルスの関係で、観光産業は非常に厳しい状況でございます。そのため今、

県では全力で金融支援に取り組んでいるところでございまして、今後も引き続きしっかりと中小企業の皆さんの支えをしてまいりたいと考えております。

その上で、委員御指摘のとおり、一人当たりの観光消費額をどう上げていくのか、これは観光産業を振興する上で極めて重要なテーマであると考えております。このため、委員から幾つか御指摘がございました、例えば九州各県で連携した取り組み、あるいはSNSなどを活用した情報発信、これらのことに我々といたしましてもしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

観光客の今後の動向、あるいは国の政策の動向もしっかり踏まえながら、我々としても全力で取り組んでまいりたい、そうすることによりまして観光産業の早期復興、それからさらなる発展に向け全力で頑張ったいと、このように考えているところでございます。

○平井一三委員

しっかりとお願いいたします。終わります。(拍手)